

| | | | | |
|--------------------------|---|------|-----------------------------|----------|
| 1. 科目名 (単位数) | 異文化理解 (2 単位) | | 3. 科目番号 | EDEN3331 |
| 2. 授業担当教員 | 高 峽 | | | |
| 4. 授業形態 | 講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表 | | 5. 開講学期 | 春期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 「異文化コミュニケーション教育」を履修していることが望ましい。 | | | |
| 7. 講義概要 | <p>国際社会や世界との関わりの中で、他者と効果的なコミュニケーションを行う力を育成するために、コミュニケーションの手段としての外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学んでいく。また、さまざまな英語圏の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に必要な知見を身に付けていく。</p> <p>本講義における学習事項としては、1. 異文化コミュニケーションの現状・課題と基礎概念、2. 異文化交流の体験過程と文化多様性の意義、3. 英語文化圏の歴史・社会・文化、以上3点を適宜扱うものとする。</p> | | | |
| 8. 学習目標 | <p>1. 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。</p> <p>2. 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。</p> <p>3. 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。</p> | | | |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | <p>1. 各回の事前・事後学習を行い、指定された資料を読み、要約または自分の意見を整理して授業内で共有する。</p> <p>2. 授業で扱う国・地域 (アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、フランス、日本) に関して、文化的多様性や教育の特徴を整理する短い要約メモを各自作成する。</p> <p>3. 中間レポートとして、「多文化共生」「移民」「先住民文化」「言語教育」のいずれかをテーマに、英語文化圏・日本・フランスの比較的視点を含めた考察を行う。</p> <p>4. 最終レポートとして、各国の教育政策・文化観・社会統合の比較を通じて、「共生社会における異文化理解教育のあり方」をテーマに自分の見解をまとめる。</p> <p>5. 授業内では、各国の事例をもとにグループ討論・発表を行い、討論内容と学びの要点を簡潔にまとめて提出する。</p> <p>☆詳細については、講義内で指示する。</p> | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | <p>【教科書】 池田理知子 編著『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房、2010。</p> <p>【参考書】 石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。</p> <p>その他文献は講義内で適宜紹介する。</p> | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準</p> <p>1. 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できるようになったか。</p> <p>2. 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解できるようになったか。</p> <p>3. 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解できるようになったか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する</p> <p>1. 授業への参加態度 総合点の 30%</p> <p>2. 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の 30%</p> <p>3. 提出課題 (レポート等) 総合点の 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得は基本的に認められない。</p> | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | <p>本講義は、異文化を単に知識として学ぶのではなく、世界の多様な文化・社会・教育のあり方を比較しながら、異なる背景をもつ人々が共に生きるための視点を養うことを目的とする。</p> <p>授業前には、配布資料をよく読み、要点や疑問点を整理して臨むこと。授業中は、各国の事例を比較し、自分の経験や考えを踏まえて積極的に意見を述べ、他者の意見に耳を傾ける姿勢が求められる。</p> <p>学期を通じて、異文化を理解し、多様な価値観を尊重する視点を身につけることを期待する。</p> | | | |
| 13. オフィスアワー | 初回の講義内で通知する。 | | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | | |
| 第 1 回 | ガイダンス・異文化理解とは | 事前学習 | シラバスを確認し、扱うテーマ内容について把握しておく。 | |
| | | 事後学習 | 異文化理解の定義をまとめ、授業方針を理解。 | |
| 第 2 回 | グローバル社会と多文化共生の現状 | 事前学習 | 配布資料を読む。世界の文化多様性・移民統計に目を通す。 | |
| | | 事後学習 | 各国の多文化状況と自国の比較をノート整理。 | |
| 第 3 回 | アメリカ①：移民社会の形成 | 事前学習 | アメリカの移民史・移民政策に関する資料を読む | |
| | | 事後学習 | アメリカの移民政策の特徴をまとめる。 | |
| 第 4 回 | アメリカ②：教育と文化的多様性 | 事前学習 | ESL 教育・人種統合教育の資料を読む | |
| | | 事後学習 | アメリカの多文化教育の意義を考える。 | |
| 第 5 回 | イギリス：社会的包摂と多文化教育 | 事前学習 | 公教育と文化差の扱いに関する資料を読む | |
| | | 事後学習 | 包摂教育の特徴を整理し、比較の視点を持つ。 | |
| 第 6 回 | カナダ：モザイク社会と二言語主義 | 事前学習 | 多文化政策・言語政策の資料を読む。 | |
| | | 事後学習 | 二言語政策の利点と課題を整理。 | |

| | | | |
|------|----------------------|------|-----------------------------|
| 第7回 | オーストラリア①：移民政策の変遷 | 事前学習 | White Australia 政策の歴史資料を読む。 |
| | | 事後学習 | 移民政策の変化と多文化化の背景を考察。 |
| 第8回 | オーストラリア②：先住民文化と教育 | 事前学習 | アボリジニ教育に関する資料を読む。 |
| | | 事後学習 | 文化継承教育の意義を考える。 |
| 第9回 | フランス①：共和国理念と文化的統合 | 事前学習 | 同化主義に関する資料を読む。 |
| | | 事後学習 | 共和国理念と多文化社会の緊張を考える。 |
| 第10回 | フランス②：移民・宗教・教育現場の課題 | 事前学習 | 教育における宗教・言語の事例資料を読む。 |
| | | 事後学習 | フランス的統合モデルの課題を要約。 |
| 第11回 | 日本①：多文化共生政策と現状 | 事前学習 | 政策資料を読む。 |
| | | 事後学習 | 日本の地域多文化施策を整理。 |
| 第12回 | 日本②：学校現場の多文化教育 | 事前学習 | 外国人児童生徒教育の事例を読む。 |
| | | 事後学習 | 学校現場の課題をまとめる。 |
| 第13回 | 日本③：多文化共生社会における教育の役割 | 事前学習 | 教育分野の概要資料を読む |
| | | 事後学習 | 自身の教育観を短文でまとめる。 |
| 第14回 | グループ発表準備 | 事前学習 | 参考資料を整理し発表資料を作成 |
| | | 事後学習 | グループで内容確認。 |
| 第15回 | 学生発表とまとめ | 事前学習 | 発表原稿を確認。 |
| | | 事後学習 | ノートや資料を整理し、レポートを作成。 |